

～リウマチ膠原病患者さんでの新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）ワクチン～

今回は最近患者さんからの相談が多かった、リウマチ膠原病患者さんでの新型コロナウイルスワクチンを話題としました。ここでは誌面の制約上、「リウマチ膠原病患者さん」に特有の注意点に絞ってお話します。

一般的なことは、首相官邸/厚生労働省発行「新型コロナウイルスについて皆さんに知ってほしいこと」（<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/vaccine.html>のサイト内にあります）や日本医師会発行「新型コロナウイルスワクチンを予約された方へ」（https://www.med.or.jp/dl-med/kansen/novel_corona/link/vaccineleaflet_inoculation.pdf）をご参照願います。

新型コロナウイルスワクチン接種について当科の考え

- ◆基本的には本ワクチンを接種した方がよいと考えます。
- ◆ワクチン接種前後では、基本的には原疾患（リウマチ、膠原病といった自己免疫疾患）に対する治療は変更せず続けます。



私どもとしては以下に述べるような本ワクチンの有効性と安全性、学会などの見解などを鑑み、上述の見解を提案します。ただし最終的にはご本人の意思、ご家族や担当医との相談を踏まえて決定されることは言うまでもありません。

なお、特に担当医に相談した方がよい場合については2ページ目に記しております。

本件に関する詳細について参考となるサイト（2021年5月30日現在）

- 厚生労働省: <https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/vaccine.html>
- 日本医師会: https://www.med.or.jp/dl-med/kansen/novel_corona/link/vaccineleaflet_inoculation.pdf
- 日本リウマチ学会: https://www.ryumachi-jp.com/information/medical/covid-19_2/

患者さんの紹介・予約

http://bokutoh-hp.metro.tokyo.jp/relation/iryourenkei_syoukai.html

墨東 患者紹介



検索

◆外来初診予約（患者さん、医師ともに可）

予約センター専用電話番号：03-3633-5511

予約受付時間 午前8：30～午後5：00／月～土（お電話当日の予約はお受けいたしかねます。）

◆緊急の診察のご相談（医師専用）

病院代表電話番号：03-3633-6151

- ①平日日中: リウマチ膠原病科 島根、小田、杉森（当番制）のいずれかにご連絡願います。
- ②夜間・休日: 当院ER担当医師へご相談願います。診察の緊急性、緊急入院の適応を検討いたします。緊急入院の場合、翌日日中までに専門医が診療します。

都立墨東病院リウマチ膠原病科スタッフ

西川卓治（部長）／島根謙一（医長）／小田彩／杉森祐介／眞野洋彰

有効性に関すること

ワクチン接種により、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対して重症化予防、死亡率低下といった有効性が報告されており、現時点では変異株に対しても一定の有効性を期待できます。

免疫抑制治療による新型コロナワクチンの有効性減少を懸念される患者さんがいます。現時点では、生物学的製剤など分子標的薬を含む抗リウマチ薬、免疫抑制剤、ステロイドといった薬剤による、本ワクチン有効性への具体的な影響は不明です。さらに一時休薬によるワクチン有効性の上昇と再燃の危険性上昇もよくわかっていません。一部の抗リウマチ薬などでは若干有効性が減弱する可能性があります。いずれにしても私どもとしては接種を受ける方がよいと考えております。

安全性に関すること

大きく、重篤であるが頻度が極めて低いアナフィラキシー（原因物質曝露後、極めて短時間のうちに全身に現れる重篤なアレルギー症状）と頻度が高い副反応に分けて考えます。

本ワクチン（現時点ではほとんどファイザー製）による**アナフィラキシーは、日本では24件/100万接種と発生頻度は極めて低い**です。**通常接種後15分以内に発症**します。本ワクチンの成分、特にポリエチレングリコール（PEG）あるいはPEGと交差反応性があるポリソルベートを含む薬剤に対して重度の過敏症をきたした既往がある場合には、本ワクチン接種を避けるべきとされています。これ以外に積極的に避けるべきとされる条件は現時点ではありません。

頻度が高い副反応としては、接種部位の疼痛（80%以上）、倦怠感、発熱などがあり、年齢が若いほど、そして接種1回目より2回目の後で症状が強くなる傾向があります。**通常接種翌日をもっとも症状が強く、数日以内に改善**します。改善しない場合は、医師の診察を受けましょう。

ワクチンによる原疾患への影響は不明ですが、少なくともこれまで一定の割合で問題となる悪化（再燃）が起こったという報告はありません。

弱毒生ワクチンではないので、免疫抑制治療による制限はありません。

特に担当医と相談を要する場合

- ◆原疾患の活動性が高い患者さん。
- ◆原疾患に対して中等量以上のステロイド（プレドニゾロン換算 10mg/日以上）投与中、リツキシマブ（抗CD20抗体製剤）投与後間もない患者さん。
- ◆過去にワクチン、薬剤などによりアレルギー症状（特にアナフィラキシーと言われる重篤なタイプ）を経験した患者さん。
- ◆ワクチン接種前後の抗リウマチ薬の休薬を強く希望する患者さん。

その他の注意点

- ✓接種に際して、体調管理に気をつけましょう。
- ✓ワクチン接種後もこれまでどおりの感染予防を継続しましょう。COVID-19はワクチンで完全に抑えられるわけではありません。